

お祖父^{じい}さんは、正木の家で次郎をあたたく^{むか}迎えてくれた人物です。本文の34行目から36行目に、次郎がお祖父さんに対して抱^{いだ}いていたはじめの気持ちが記されています。その後、牛肉の一件によって、次郎のお祖父さんに対する気持ちは変化します。それが記されているのが、本文の125行目から130行目です。以上の部分の言葉を使いながら、制限字数の中で次郎の気持ちの変化を説明することを求めた問題です。

小説の読解においては、登場人物の気持ちの変化を丁寧^{ていねい}に読み取ることが大切です。ふだんから小説を読むときには、登場人物の心情に注意しながら読み進める習慣をつけましょう。

[平成17年度出題]

正 解

解答例

(はじめは、) お祖父さんが次郎の第一の味方で他の人たち以上に自分をほめていると思い、親近感を覚えていた。だが、自分の善行が本心でないと見ぬかれたようで、誇らしさも消え手も足も出ないという思いに変化した。(99字)